

第3章 三原市の歴史文化の特徴

1 歴史文化の特徴の整理

第1章に記載した三原市の概要をもとに、三原市の歴史文化の特徴を整理します。

三原市は、自然的・地理的状況として、「①瀬戸内海と中国山地に抱かれた豊かな自然環境」において、「②陸と海の交流の要衝」として特徴付けられます。この状況を基盤として、人々の営みや社会が形成され、「③時代とともに発展した産業」の3つに整理できます。この3つを横軸とし、時代の流れ（歴史的背景）を縦軸として、特徴的な歴史文化を次の図に整理してみました。その上で、図にあげた内容をもとに三原市の歴史文化を表す特徴を7つのまとまりで構成しました。

三原市の特徴

<p>①瀬戸内海と中国山地に抱かれた豊かな自然環境</p> <p>三原市には、瀬戸内海から山地・丘陵へと移り変わる多様な自然環境があります。平野部には沼田川などの河川が流れ、豊かな自然環境とともに暮らしが営まれ、多様な地域性を形成してきました。</p>
<p>②陸と海の交流の要衝</p> <p>古代から山陽道が整備され、中央政権などとのつながりが強い地域でした。また、瀬戸内海に開かれて城下町が形成されるなど、陸と海の交通の要衝として多様な往来や交流がありました。</p>
<p>③時代とともに発展した産業</p> <p>利便性を活かし、それぞれの時代で産業が発達し、地域内だけでなく、地域外へと運ばれ、地域の暮らしや経済を支え、地域社会の基盤となりました。</p>

歴史文化の読み解き

[自然的・地理的環境、社会的状況]

	瀬戸内海と中国山地に抱かれた豊かな自然環境	陸と海の交流の要衝	時代とともに発展した産業
原始・古代	<ul style="list-style-type: none"> ●ナウマンゾウの暮らし更新世 ●旧石器時代からの人々の暮らし ●川や海に面した場所からの暮らしの定着 	<ul style="list-style-type: none"> ●中央政権とつながる勢力による沼田川流域を中心とした古墳の築造 ●古代山陽道の整備と古代寺院の建設 ●市域への信仰の広まりと地域社会の形成 	<ul style="list-style-type: none"> ●弥生時代の集落形成と稲作、金属器の製作・使用 ●久井地域を中心とした須恵器の生産
中世	<ul style="list-style-type: none"> ●荘園の拡大と沼田川河口の干拓 	<ul style="list-style-type: none"> ●土肥実平の沼田荘地頭への任命と小早川家の勢力拡大 ●高山城、新高山城築城 ●棕梨氏による支配 ●小早川氏ゆかりの寺院の建立と「市」の繁栄 	<ul style="list-style-type: none"> ●刀鍛冶の発展と三原物
近世	<ul style="list-style-type: none"> ●干拓による町域の拡大と塩田の造成 ●農村の発展と年中行事の定着 	<ul style="list-style-type: none"> ●三原城の築城と城下町の整備と繁栄 ●山陽道（西国街道）などの街道の往来がもたらす地域の発展 ●久井の牛市での牛馬取引 ●城下町のにぎわいと神明市などの町人文化の形成 	<ul style="list-style-type: none"> ●酒造りや献上茶などの産業の発達
近・現代	<ul style="list-style-type: none"> ●瀬戸内海国立公園の指定 ●希少な植生や動物などの保護 	<ul style="list-style-type: none"> ●山陽鉄道の敷設と糸崎駅、三原駅の開業 ●糸崎港の特別貿易港への指定と流通の活性化 ●広島空港、山陽自動車道等の開通 ●1市3町の合併による新三原市の誕生 	<ul style="list-style-type: none"> ●工場の誘致と近代産業都市としての発展

●の色は歴史文化の特徴の各項目に対応

歴史文化の特徴

- 1 遺跡が伝える
沼田川流域の暮らし
- 2 古代から伝わる
神と仏
- 3 荘園の成立・
展開と小早川氏
の支配
- 4 城下町
「みはら」
と街道
- 5 近代工業都市
「三原」
への道程
- 6 暮らしに息づく
伝統文化
- 7 瀬戸内の
海・山・川
の恵み

三原市の特徴を丁寧に読み解くことで歴史文化の特徴を導き出す

2 歴史文化の特徴と小テーマ

7つの歴史文化の特徴を、よりわかりやすく、より明確にするために、それぞれ小テーマを作成します。歴史文化の特徴のそれぞれの概要と小テーマを次のとおり整理します。

(1) 歴史文化の特徴1 遺跡が伝える沼田川流域の暮らし

市内で最も大きな流域面積を占める沼田川の流域の扇状地性低地や、それを囲む丘陵では、先史時代から、狩猟や採集により自然の恵みを生かした暮らしが営まれてきました。弥生時代には流域を中心に集落が形成され、古墳時代には中央政権とも強い繋がりを持つ勢力による古墳がまとまって築かれました。また、古代山陽道が整備されたことで往来が生まれ古代寺院が建立されるなど、沼田川流域を中心として歴史文化が築かれました。

- | | | |
|--------|-----|--------------|
| [小テーマ] | 1-1 | 先史時代の人々の暮らし |
| | 1-2 | 古墳に見る他地域との交流 |
| | 1-3 | 古代の寺院と古代山陽道 |

(2) 歴史文化の特徴2 古代から伝わる神と仏

古代から神仏信仰の対象として神像や仏像が社寺などにもたらされ、現在まで継承されています。寺院がなくなり地域で保存されているものに善根寺収蔵庫（小坂町）の平安時代の仏像群があります。宝亀8（777）年、藤原百川の創建とする御調八幡宮（八幡町）には、平安時代の神像7軀が安置されています。仏像や神像からは、信仰とともに発展した古代の地域社会や人々の暮らしをうかがうことができます。また、三原城築城とともに本郷地域の寺院が三原城下町に移転するなど、信仰は地域社会に密着して現在まで継承されてきました。地域社会での信仰とともに生活や文化を守り伝えることで、歴史文化が築かれました。

- | | | |
|--------|-----|-----------|
| [小テーマ] | 2-1 | 平安時代の神仏 |
| | 2-2 | 多様な神仏への信仰 |

(3) 歴史文化の特徴3 荘園の成立・展開と小早川氏の支配

沼田荘の地頭として定着した小早川氏は、沼田川の干拓で耕作地を広げ、沼田川兩岸の「沼田市」を経済活動の中心地として繁栄し、瀬戸内海へと活動を広げていきました。小早川氏は、米山寺や佛通寺などの領内寺院の経営、干拓事業、貿易振興などにより地域の文化・経済の発展をもたらしました。市域には小早川氏ゆかりの寺院が多くあり、佛通寺は、名勝として現在も多くの人々が訪れ、小早川氏の歴史を伝えています。小早川氏による高山城、新高山城、三原城を中心に現在につながる地域社会が発展し、歴史文化が築かれました。

- [小テーマ] 3-1 沼田荘・杭荘の世界と中世の産業
3-2 山城の築城
3-3 小早川氏ゆかりの寺院・歴史資料

(4) 歴史文化の特徴4 城下町「みはら」と街道

小早川隆景により築城された三原城は、大島・小島をつなぎ築かれた、海に開かれた拠点です。小早川氏ゆかりの寺院が新高山城周辺から移転し、西国街道を取り込み、城下町が形成されました。江戸時代には、三原浅野氏が城主となり、沿岸部の干拓により区域を広げ、西国街道の往来とともに繁栄します。市域には街道が整備され、久井は在郷町として発展し、往来とともに歴史文化が築かれ、地域に根付いていきました。

- [小テーマ] 4-1 城下町の形成
4-2 西国街道の往来と城下町の繁栄

(5) 歴史文化の特徴5 近代工業都市「三原」への道程

山陽鉄道・呉線（旧三呉線）といった鉄道の開業、特別貿易港として開港した糸崎港に支えられ、臨海部を中心に近代工業都市として発展します。沼田川河口部の円一・和田沖は明治時代から干拓が行われ、交通の便と豊富な水を背景に、現在に至るまで多くの工場が稼働しています。工業の進出とともに、居住地の開発や市街地の整備などが進み、また教育施設も設置され、近代工業都市として歴史文化が築かれました。

- [小テーマ] 5-1 鉄道と港の発達
5-2 企業城下町三原

(6) 歴史文化の特徴6 暮らしに息づく伝統文化

市内の各地には、農業や漁業などの暮らしが定着し、同時に西国街道などの往来と交流を通して周辺から文化が伝わり、多彩な民俗文化が地域に根付き、現在まで継承されています。また、市域には多彩な祭礼行事が所在します。五穀豊穡や豊漁を願う能地春祭のふとんだんじり、ちんこんかん、盆踊りといった年中行事が暮らしとともに行われ、現在の「祭りのまち 三原」へと引き継がれる歴史文化が築かれました。

- [小テーマ] 6-1 瀬戸内の伝統文化
6-2 内陸部の伝統文化

(7) 歴史文化の特徴7 瀬戸内の海・山・川の恵み

市域は、瀬戸内海と山に囲まれ、沼田川などの河川が平野部を貫流しています。限られた土地のなかで、人々は自然環境と共生してきました。自然環境は沿岸部と内陸部では全く異なり、その豊かな自然の中でエヒメアヤメやナメクジウオなど多くの希少生物が生息しています。

社叢や寺院の境内など、信仰と結びついた自然環境も地域で大切にされています。




- [小テーマ] 7-1 瀬戸内の景観と自然
7-2 内陸部の自然環境

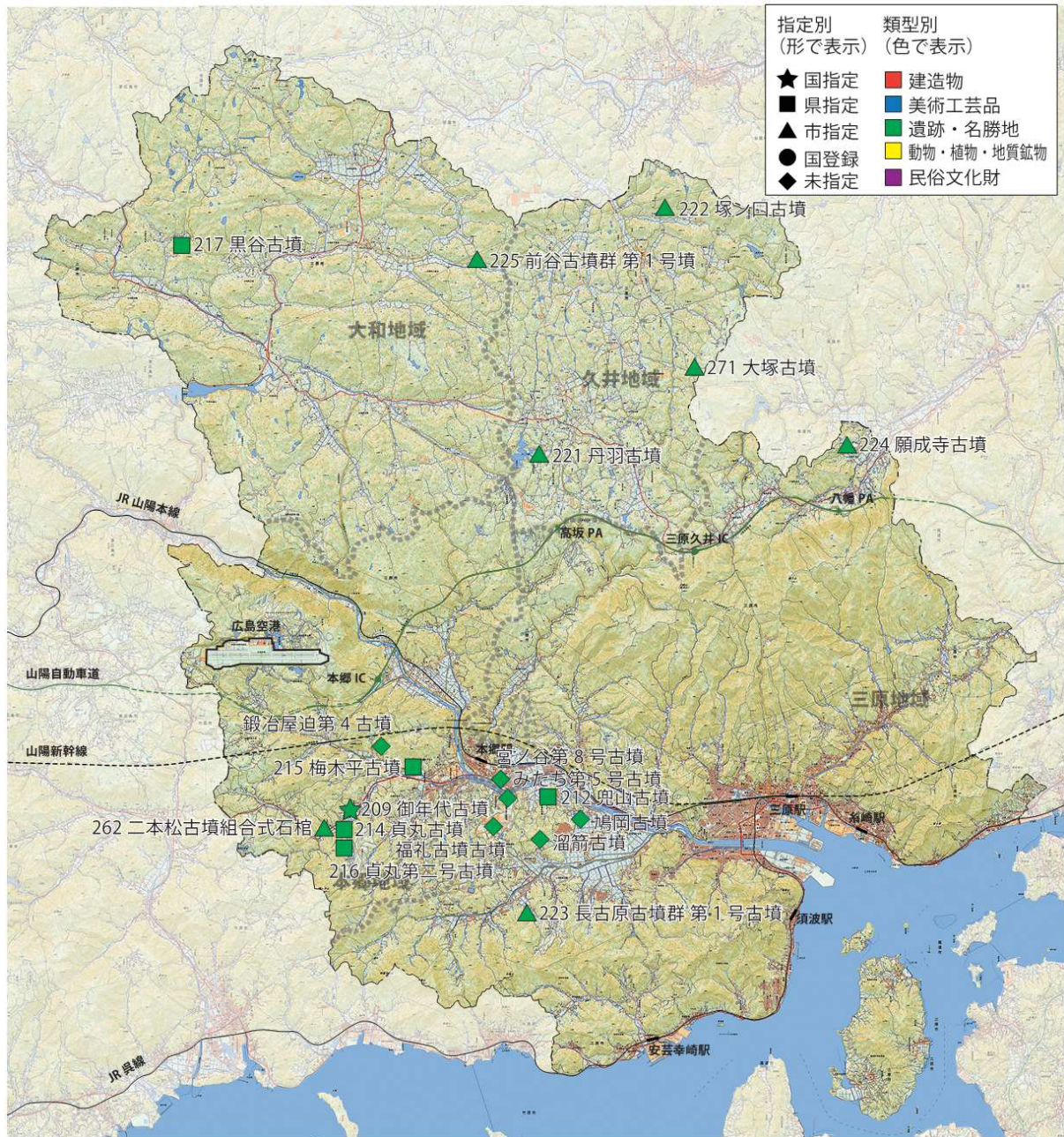
注釈) 観光戦略プラン(第2次)では、リーディングプロジェクトである「祭りの三原活用」推進プロジェクトの中で、「祭りのまち 三原」として情報発信することがうたわれています。

特徴	1 遺跡が伝える沼田川流域の暮らし
小テーマ	1-1 先史時代の人々の暮らし
概要	<p>約1万年以上前は、海底からナウマンゾウの化石が引き揚げられたことから、現在より海面が低かったことがわかります。その後温暖な気候となり、海面が上昇し、現在の瀬戸内海が形成されました。</p> <p>縄文時代には川や海に面した場所で人々の暮らしが定着し、弥生時代には、稲作の開始とともに、集落が平地へと広がっていきます。</p> <p>貝持貝塚では海水産と淡水産の貝類が混じり、当時川や海に面した場所で人々が生活していたことがうかがえます。</p> <p>沼田川流域では早くから水稲耕作が行われ、土器のほかに石包丁などの石器も出土しています。</p>
関連する 主な みはら 資源	<p>[市指定] 古武子遺跡工房跡出土石器類 [未指定] ナウマンゾウの化石、宿禰島旧石器、筋原垣内遺跡、貝持貝塚 旧石器・縄文・弥生時代の遺跡</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="347 869 994 1290">  <p data-bbox="363 1301 683 1330">古武子遺跡工房跡出土石器類</p> </div> <div data-bbox="1007 869 1350 1317">  <p data-bbox="1310 1061 1350 1084">石器</p> <p data-bbox="1278 1294 1350 1317">環状石器</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div data-bbox="331 1384 818 1794">  <p data-bbox="352 1839 432 1868">宿禰島</p> </div> <div data-bbox="839 1406 1377 1765">  <p data-bbox="871 1839 1094 1868">ナウマンゾウの化石</p> </div> </div>



主なみはら資源の分布 1-1 先史時代の人々の暮らし

特徴	1 遺跡が伝える沼田川流域の暮らし
小テーマ	1-2 古墳に見る他地域との交流
概要	<p>三原市は、県内でも有数の古墳の密集地域となっており、市域全体に分布しています。沼田川中流域を中心に古墳が築かれ、その代表的なものとして、県内最大級の横穴式石室を有する梅木平古墳や、玄室が前室・後室に分かれて剝抜式<small>くりぬきしき</small>の家形石棺が2つ置かれている御年代古墳があります。これらの古墳は、石室の規模や構造から、当時の中央政権がおかれた畿内と繋がりを持った、勢力の大きな豪族がいたと考えられます。</p> <p>二本松古墳組合式石棺などでは、兵庫県高砂市産の竜山石を運んで使用するなど、海上交通による他の地域との交流をうかがい知ることができます。</p> <p>大和町の黒谷古墳は、九州などで見られ、県内唯一である石棚を設けた石室があります。</p>
関連する 主な みはら 資源	<p>[国指定] 御年代古墳 [県指定] 梅木平古墳、貞丸古墳・第2号古墳、兜山古墳、黒谷古墳 [市指定] 二本松古墳組合式石棺、前谷古墳群第1号墳、長古原古墳群第1号古墳 [未指定] 市内の古墳 475基</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>御年代古墳</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>兜山古墳</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>梅木平古墳</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>二本松古墳組合式石棺</p> </div> </div>



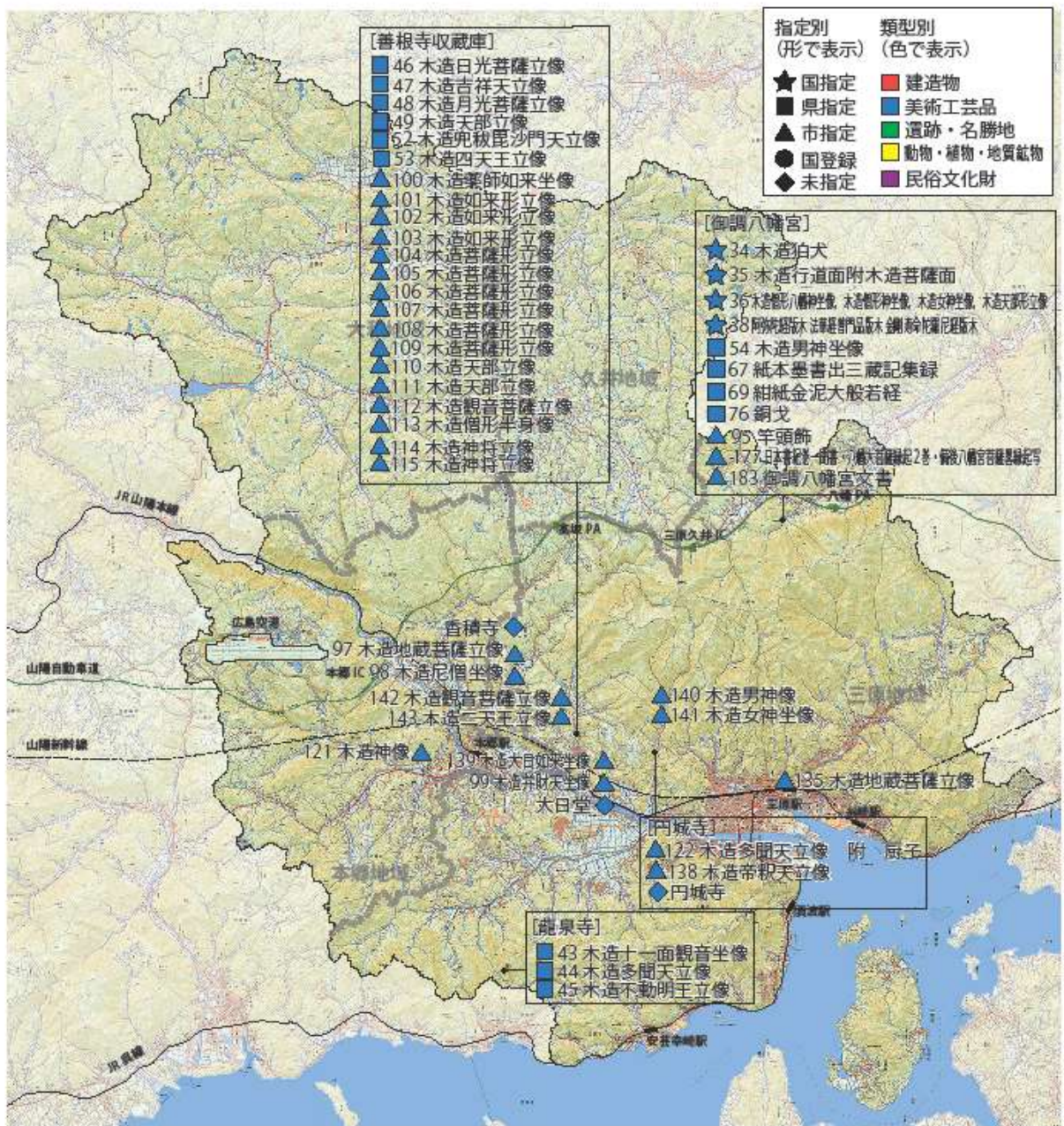
主なみはら資源の分布 1-2 古墳に見る他地域との交流

特徴	1 遺跡が伝える沼田川流域の暮らし
小テーマ	1－3 古代の寺院と古代山陽道
概要	<p>律令制度下、主要な道であった古代山陽道が整備され、真良駅（高坂町）と梨葉駅（本郷町北方）があったと推定されています。その周辺には古代寺院が建てられました。毘沙門山下遺跡からは、県内最古とみられる飛鳥時代の軒丸瓦が出土しています。横見廃寺跡は発掘調査により7世紀中ごろに建立されたと推定されます。</p> <p>古代の山陽道を北にひかえた御調八幡宮は、宝亀8（777）年に社殿が建立されたといわれ、平安末期には石清水八幡宮の別宮となりました。また、中之町には市内で唯一の式内社である賀羅加波神社があります。</p> <p>寺院として、小坂町には大寺の善根寺が栄え、小泉町白滝山頂には平安時代に龍泉寺が建立されました。</p>
関連する 主な みはら 資源	<p>〔国指定〕横見廃寺跡 〔市指定〕須恵器窯跡 <small>びしゃもんやました</small> 〔未指定〕横見廃寺跡出土瓦、毘沙門山下遺跡、虚空蔵堂寺跡、古代山陽道、楽音寺、東禅寺、二位神社、賀羅加波神社、龍泉寺</p> <div data-bbox="352 824 1050 1285" data-label="Image"> </div> <p>横見廃寺跡</p> <div data-bbox="352 1386 1050 1825" data-label="Image"> </div> <p>須恵器窯跡</p>



主なみはら資源の分布 1-3 古代の寺院と古代山陽道

特徴	2 古代から伝わる神と仏
小テーマ	2-1 平安時代の神仏
概要	<p>市内には、平安時代からの仏像が多く残されています。</p> <p>これは、古代山陽道と沼田川流域が交わる土地が、政治経済の中心となっていたことと関わりがあると考えられます。</p> <p>宝亀8（777）年に建立された御調八幡宮は古代山陽道のそばに建てられ、9世紀以降の神像が残されています。</p> <p>沼田川流域付近の善根寺は、現在寺は失われています。善根寺収蔵庫には平安時代以降の仏像が多く残され、地域で大切に受け継がれてきました。他にも同じ流域付近にある円城寺、香積寺、大日堂などにも同時代のものと考えられる仏像が存在しています。</p> <p>これらのことから、平安時代における市内の宗教文化が豊かであったことがわかります。</p>
関連する 主な みはら 資源	<p>[国指定] 木造僧形八幡神坐像、木造僧形神坐像、木造女神坐像、木造天部形立像（御調八幡宮）</p> <p>[県指定] 木造日光菩薩立像、木造月光菩薩立像（善根寺）</p> <p>[市指定] 木造薬師如来坐像、木造如来形立像、木造菩薩形立像（善根寺）、木造尼僧坐像</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>木造女神坐像（御調八幡宮）</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>木造僧形八幡神坐像（御調八幡宮）</p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;">  <p>善根寺仏像群</p> </div>






主なみはら資源の分布 2-1 平安時代の神仏

特徴	2 古代から伝わる神と仏
小テーマ	2-2 多様な神仏への信仰
概要	<p>人々の暮らしの中で、市域では多様な信仰が浸透し、彫刻や絵画などの工芸品が市内の寺院にもたらされました。本郷地域にあった寺院の多くは、小早川隆景による三原城築城に伴い、三原城周辺に移転し、現在まで地域社会と密接に結びついています。</p> <p>磨崖和霊石地藏は佐木島に所在する、海の波打ち際の花崗岩に彫刻された磨崖式半肉彫の像です。また、末法思想の広がりから、西野田経塚（本郷町本郷）・宮地川経塚（本郷町北方）がつけられました。西野田経塚や宮地川経塚は、当時の埋経儀礼をうかがう上で貴重な資料です。</p> <p>こうした信仰は、大切に守り伝えられ、現在まで引き継がれてきました。</p>
関連する 主な みはら 資源	<p>[国指定] 紙本墨書大般若経（正法寺）</p> <p>[県指定] 紙本著色仏涅槃図（楽音寺）、磨崖和霊石地藏</p> <p>[未指定] 楽音寺、西野田経塚、宮地川経塚、龍泉寺、賀羅加波神社</p> <div data-bbox="416 819 1155 1272" data-label="Image"> </div> <p>紙本墨書大般若経</p> <div data-bbox="432 1364 1042 1805" data-label="Image"> </div> <p>磨崖和霊石地藏</p>






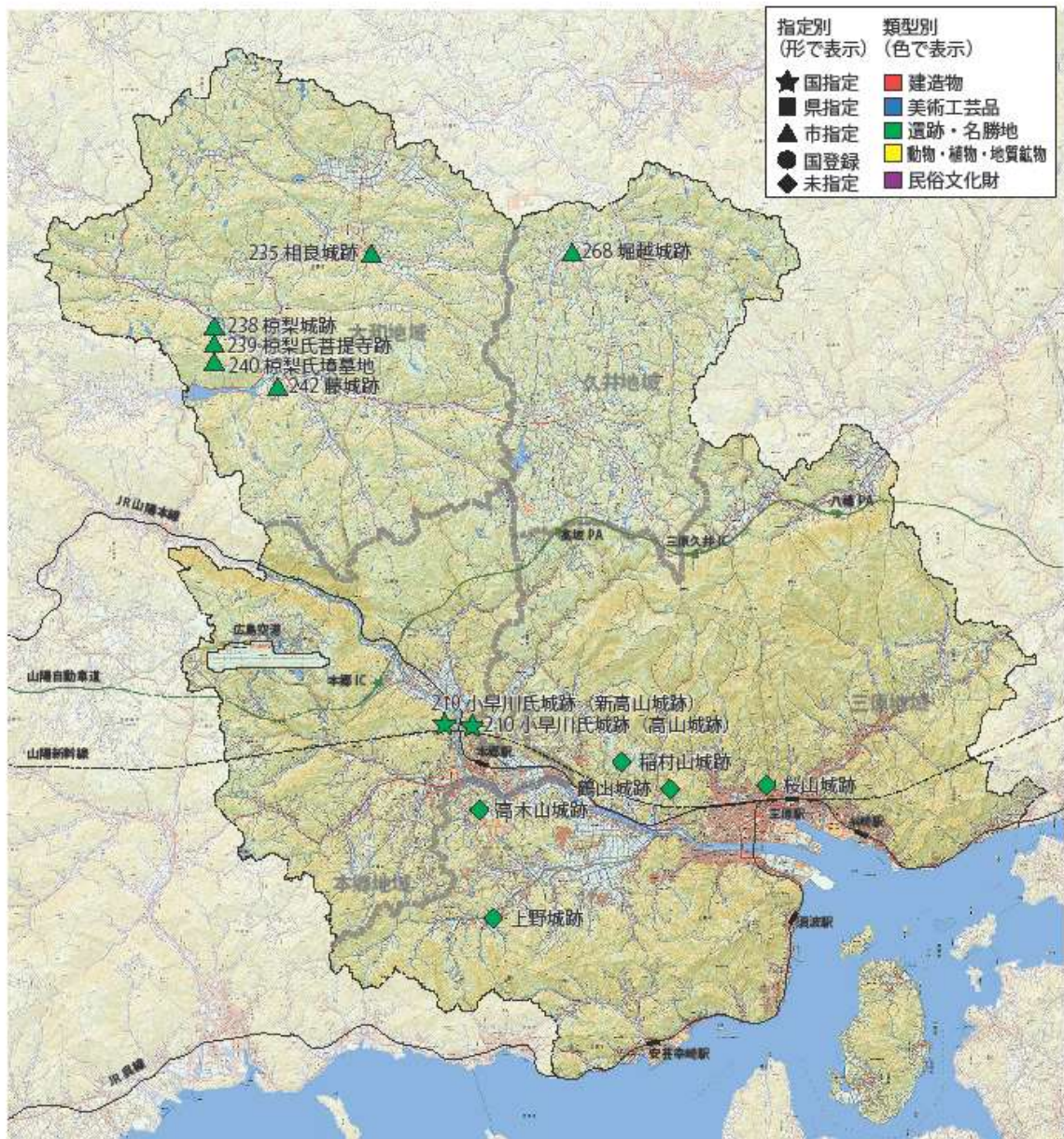
主なみはら資源の分布 2-2 多様な神仏への

特徴	3 荘園の成立・展開と小早川氏の支配
小テーマ	3-1 沼田荘・杭荘の世界と中世の産業
概要	<p>小早川氏の祖である土肥実平は、源頼朝に任じられて沼田荘地頭となり、子孫は在地勢力として定着します。</p> <p>小早川氏は、荘園拡大のため、沼田川の河口を干拓し耕作面積を増やしました。「沼田市」が沼田川の両岸に形成され、小早川氏の交易や経済活動の中心地として、繁栄しました。</p> <p>明応2（1493）年には、小早川敬平が現在の久井町にある杭^{くいのしょう}荘の代官職を請け負うこととなります。この杭荘にある、久井稻生神社で行われる御当は、中世の宮座の伝統を今に伝えています。</p> <p>この頃の三原の産業として、農業や林業のほかに塩・刀・鋳物が知られています。特に鋳物師・刀鍛冶が活躍し、「三原物（三原地方で作られた刀剣類）」が全国に知られました。</p>
関連する主なみはら資源	<p>[国指定] 米山寺宝篋印塔 [国選択] 久井稻生神社の御当 [県指定] 佛通寺文書、東禅寺文書、紙本墨書正応三年四月比丘尼浄蓮寄進状他十一通（楽音寺）、紙本墨書大般若経（久井稻生神社） [市指定] 弁海文書、山科家文書、沼田東出土中世船の船底材、短刀 銘 三原住正家、短刀 銘 備州三原住正近作、短刀 銘 備後国三原住貞正則、木造尼僧坐像 [未指定] 万性寺、中世武士団草井氏発祥の地（記念碑）</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="336 1093 831 1435">  <p>佛通寺文書</p> </div> <div data-bbox="874 1093 1385 1435">  <p>東禅寺文書</p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;">  <p>久井稻生神社の御当</p> </div>





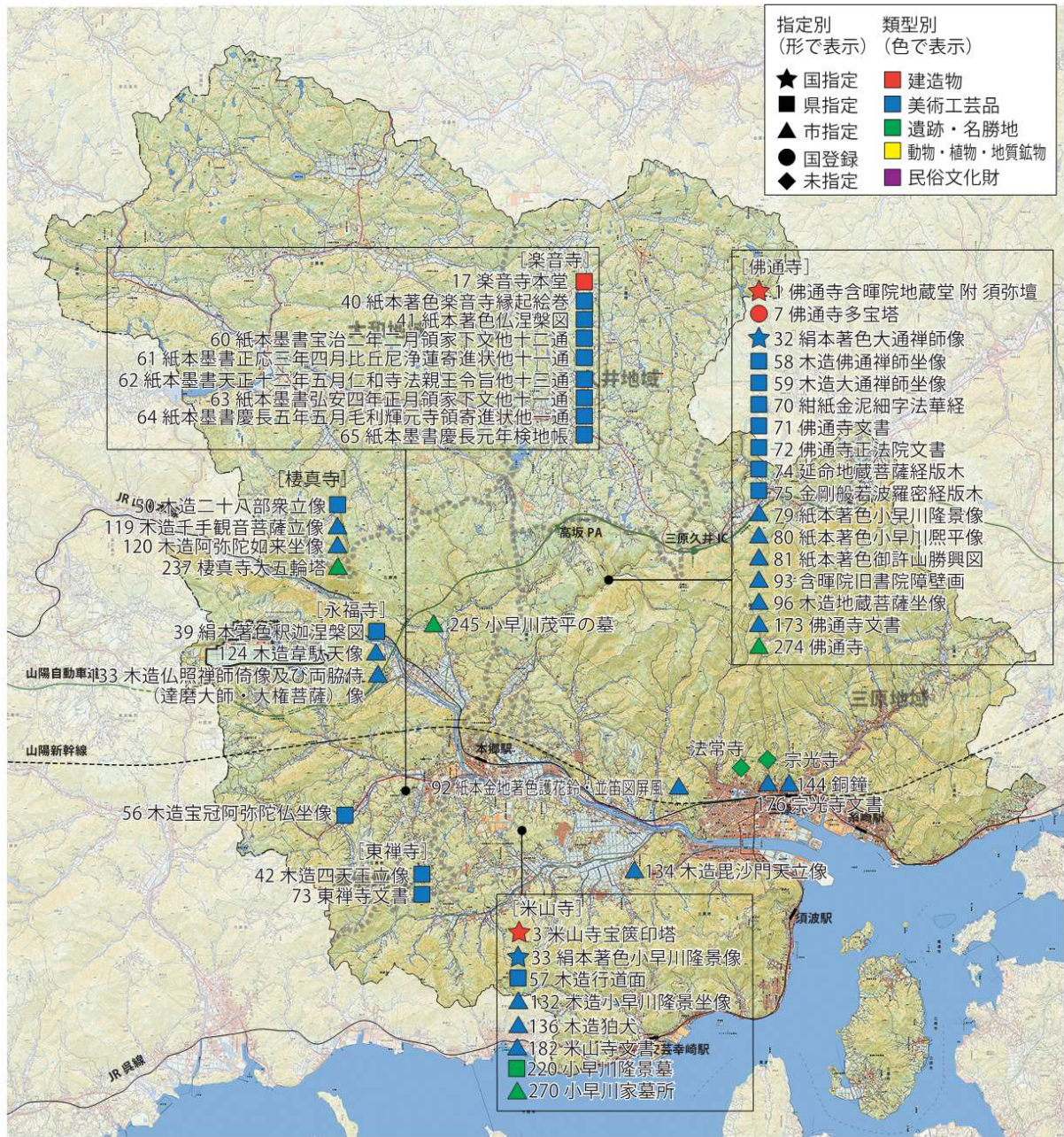
主なみはら資源の分布 3-1 沼田荘・杭荘の世界と中世の産業

特徴	3 荘園の成立・展開と小早川氏の支配
小テーマ	3-2 山城の築城
概要	<p>山城の跡は、市内に多く点在しています。</p> <p>高山城は、建永元（1206）年、小早川氏の4代である茂平により築かれたと伝わります。茂平は、庶子家を分出するなど在地勢力としての基盤をつくりました。</p> <p>小早川氏の一族やその家臣は、その後、現在の大和町や久井町の各地で、山城を築きました。自然の山のつくりを活かして築かれた山城は、戦いに有利であり、当時が争いの絶えない時代であったことを物語っています。</p> <p>現在も棕梨氏の棕梨城跡や、梨羽氏の梨羽城跡など多くの山城が残っています。</p> <p>小早川隆景は、天文 21（1552）年に高山城の対岸の新高山城に入り、永禄 10（1567）年、三原城を築城して瀬戸内海での活動を広げていきます。</p>
関連する 主な みはら 資源	<p>[国指定] 小早川氏城跡（高山城跡、新高山城跡、三原城跡）</p> <p>[市指定] 棕梨城跡、相良城跡、藤城跡</p> <p>[未指定] 稲村山城跡、梨羽城跡、行武城跡、高木山城跡、鶴山城跡、桜山城跡、上野城跡など</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="368 864 834 1211">  <p data-bbox="387 1227 536 1256">小早川氏城跡</p> </div> <div data-bbox="903 864 1369 1211">  <p data-bbox="922 1227 1023 1256">棕梨城跡</p> </div> </div> <div data-bbox="368 1290 834 1682">  <p data-bbox="387 1697 488 1727">相良城跡</p> </div>



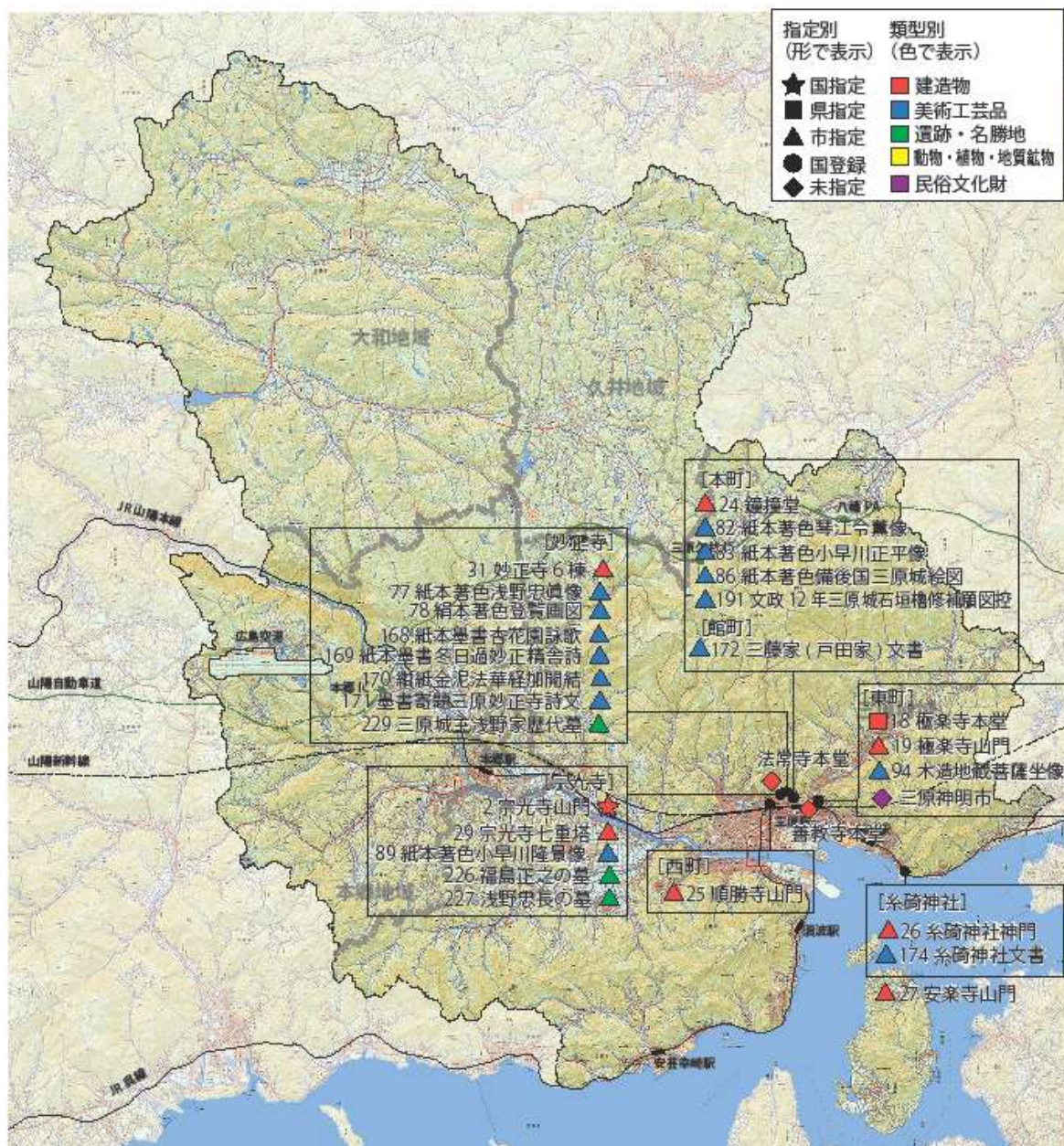
主なみはら資源の分布 3-2 山城の築城

特徴	3 荘園の成立・展開と小早川氏の支配
小テーマ	3-3 小早川氏ゆかりの寺院・歴史資料
概要	<p>小早川氏は領内の寺院経営に力を入れ、市域には現在も小早川氏ゆかりの寺院が多くあります。</p> <p>小早川氏は当初源平合戦で滅亡した沼田氏の氏寺であった楽音寺を引き継いでいましたが、4代茂平の時に巨真山寺（米山寺）を氏寺とし、勢力を拡大していきました。米山寺には小早川隆景の肖像画や小早川氏歴代当主の墓が残ります。</p> <p>また、土肥実平・遠平が力を注いで創建したのが大和町にある棲真寺でした。棲真寺には、二十八部衆立像・阿弥陀如来坐像といった鎌倉前期の彫刻が伝えられています。</p> <p>佛通寺は、9代春平が応永4（1397）年に創建した禅宗寺院で、現在も多くの人々が訪れる名勝となっています。佛通寺文書は、小早川氏や毛利氏らの禁制などを含み、学術的にも貴重です。また、春平が求めて制作された開山僧愚中周及<small>くちゆうしゅうきやう</small>の自賛の頂相・自筆の消息文も保管されています。</p>
関連する主なみはら資源	<p>[国指定] 佛通寺含暉院地藏堂 附 須弥壇、絹本着色小早川隆景像、米山寺宝篋印塔</p> <p>[県指定] 木造佛通禅師坐像、木造大通禅師坐像、木造二十八部衆立像</p> <p>[市指定] 佛通寺、紙本着色小早川隆景像、楽音寺文書</p> <p>[未指定] 小早川家歴史資料、棲真寺、米山寺、宗光寺（匡真寺）、法常寺</p> <div style="text-align: center;">  <p>佛通寺含暉院地藏堂 附 須弥壇</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>木造佛通禅師坐像(左)と木造大通禅師坐像(右)</p> </div>




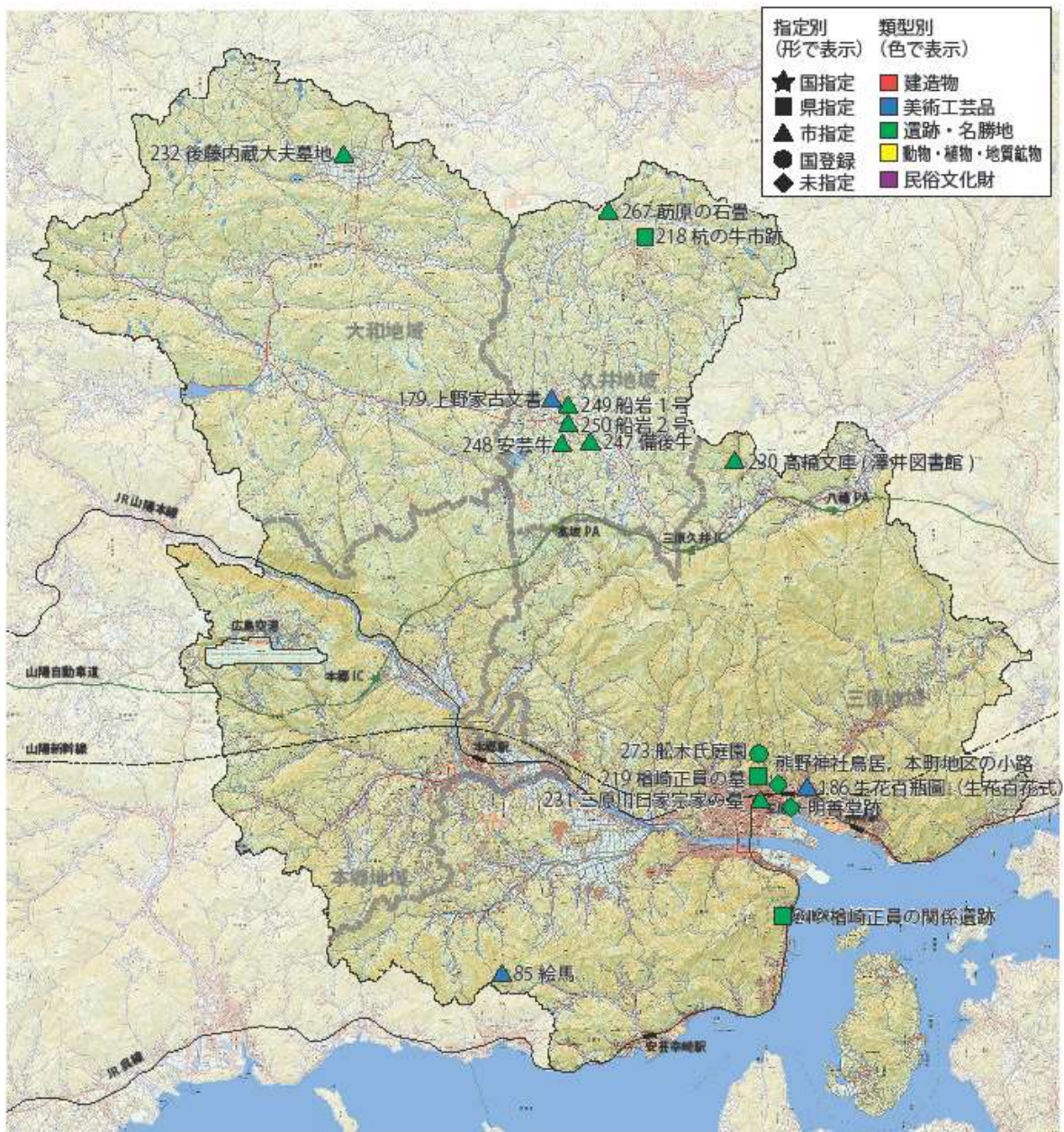
主なみはら資源の分布 3-3 小早川氏ゆかりの寺院・歴史資料

特徴	4 城下町「みはら」と街道
小テーマ	4-1 城下町の形成
概要	<p>三原城は三原湾内に浮かぶ大島・小島をつないで築かれ、海陸の要所に立地します。小早川隆景による築城とともに、新高山城下から数々の寺院が移転しました。城下町は、まず東町の整備から始まり、沼田の本市・新市などからも商人が移住したと考えられます。</p> <p>関ヶ原の戦いの後、三原城は福島氏の支配下となり、西町の町割りが行われ、現在まで伝わる城下町が整備されました。</p> <p>三原城は一国一城令が出された後も存続し、福島氏の改易後、三原浅野氏が城主となり、城下町の統治が行われます。この東西両町は、西国街道沿いの城下町として商人が集まり、にぎわいました。</p> <p>神明祭（現在の三原神明市）は、天正期（1573～1592）から始まったと言われています。</p> <p>三原城下町の地は山が海にせまり、平坦地が少なかったため、畑作のため干拓が進められ、海岸部の古浜の地には塩田も作られました。東町の塩浜新開（入浜式塩田）は、元禄13（1700）年に造成され、最盛期には15浜あったようです。佐木島・小佐木島にも江戸時代から明治時代にかけて13もの塩田が造成されました。</p>
関連する 主な みはら 資源	<p>[国指定] 宗光寺 山門 [県指定] 極楽寺本堂 [市指定] 妙正寺6棟 附 棟札9枚 祈祷札1枚、三原城主浅野家歴代墓、極楽寺山門、銅鐘、福島正之の墓、浅野忠長の墓、糸碓神社神門、紙本著色浅野忠真像、紙本著色三原西町絵図、紙本著色三原東町絵図、三原城本丸大広間建築部材 [未指定] 善教寺 本堂、法常寺 本堂、三原城下町の寺院、三原神明市</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>宗光寺山門</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>妙正寺</p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;">  <p>浅野忠長の墓</p> </div>







主なみはら資源の分布 4-1 城下町の形成

特徴	4 城下町「みはら」と街道
小テーマ	4-2 西国街道の往来と城下町の繁栄
概要	<p>城下町は西国街道を取込んで町割りが行われ、街道沿いに本陣も置かれました。城下町には商人が集まり、周辺の山麓には寺院が置かれました。</p> <p>三原の町の運営については、西町年寄を代々務めた町人川口氏の川口家文書に詳細が残されています。経済力をつけた町人を中心とした文化も発展し、城下では俳諧が盛んであったことが、遺された資料からわかります。また、学問を志す町人も現れます。その代表が、^{あんさいがく}闇斎学を学んだ^{めいぜんどう}檜崎正員や、後に『三原志稿』を作成した青木充延です。三原城二之丸に開校された学問所・明善堂は広く町人にも門戸を開きました。</p> <p>在郷町として発展した久井では牛市が開催されました。備後北部と三原を結ぶ街道が通り、荷物を運ぶ牛馬の通行や、久井牛市への牛の通路としても利用され、現在も石畳が残ります。</p>
関連する 主な みはら 資源	<p>[県指定] 檜崎正員の墓及び関係遺跡、杭の牛市跡</p> <p>[市指定] 紙本著色備後国三原城絵図、紙本著色備後国三原城下絵図、紙本著色備後三原絵図、紙本著色三原西町絵図、紙本著色三原東町絵図、筋原の石畳、三次往還、生花百瓶図（生花百花式）三原川口家宗家の墓、絹本著色登覧画図、上野家古文書</p> <p>[国登録] 船木氏庭園</p> <p>[未指定] 熊野神社 鳥居、本町地区の小路、河原坂峠の石畳</p> <div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;">  <p>紙本著色備後国三原城絵図</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; width: 100%;">   </div> </div>



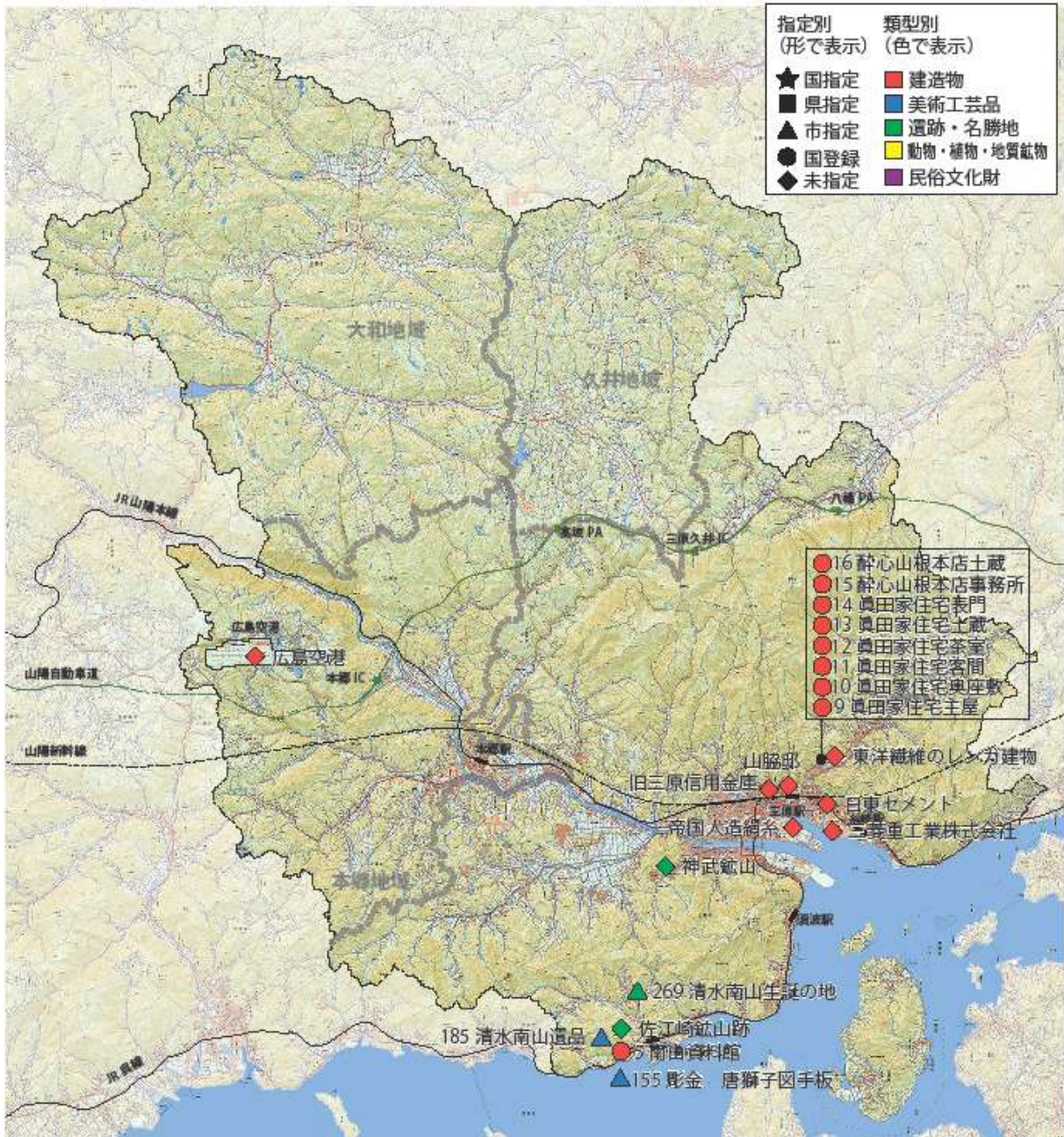
主なみはら資源の分布 4-2 西国街道の往来と城下町の繁栄

特徴	5 近代工業都市「三原」への道程
小テーマ	5-1 鉄道と港の発達
概要	<p>近代になると鉄道の整備が進められ、東から延びてきた山陽鉄道は、まず明治 25 (1892) 年に現在の糸崎駅まで開通しました。その後明治 27 (1894) 年には鉄道が広島まで延伸したことで、三原城本丸跡地に三原停車場が開業しました。</p> <p>鉄道の開通に伴い造られたトンネルなどの施設の一部は、現在も残っています。</p> <p>江戸時代末期に糸崎神社の西側に築かれた松濱 (浜) 港が、糸崎港の前身です。近隣の都市の中でも港湾条件が良いため、停泊・寄港する船舶が増えて賑わいました。糸崎港は、明治 33 (1900) 年に特別貿易港に指定され、工業港として近代産業の発展を支えました。</p> <p>昭和には、呉線 (旧三呉線) の建設が進められ、昭和 10 (1935) 年に全通しました。三原車両製作所 (現在の三菱重工三原製作所) では、貨物用機関車の生産も行われ、つくられた機関車は全国で活躍しました。</p>
関連する 主な みはら 資源	<p>[未指定] 鉄道学校跡 記念碑、松濱新港之碑、糸崎機関区貯水地跡、三菱重工 ディーゼル機関車、小佐木島灯台、白滝山加古谷 石積み砂防堰堤、砂留、糸崎駅</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>三菱重工三原製作所に現存するディーゼル機関車</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>鉄道学校跡 記念碑</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>小佐木島灯台</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>船木亀津架道拱渠</p> </div> </div>





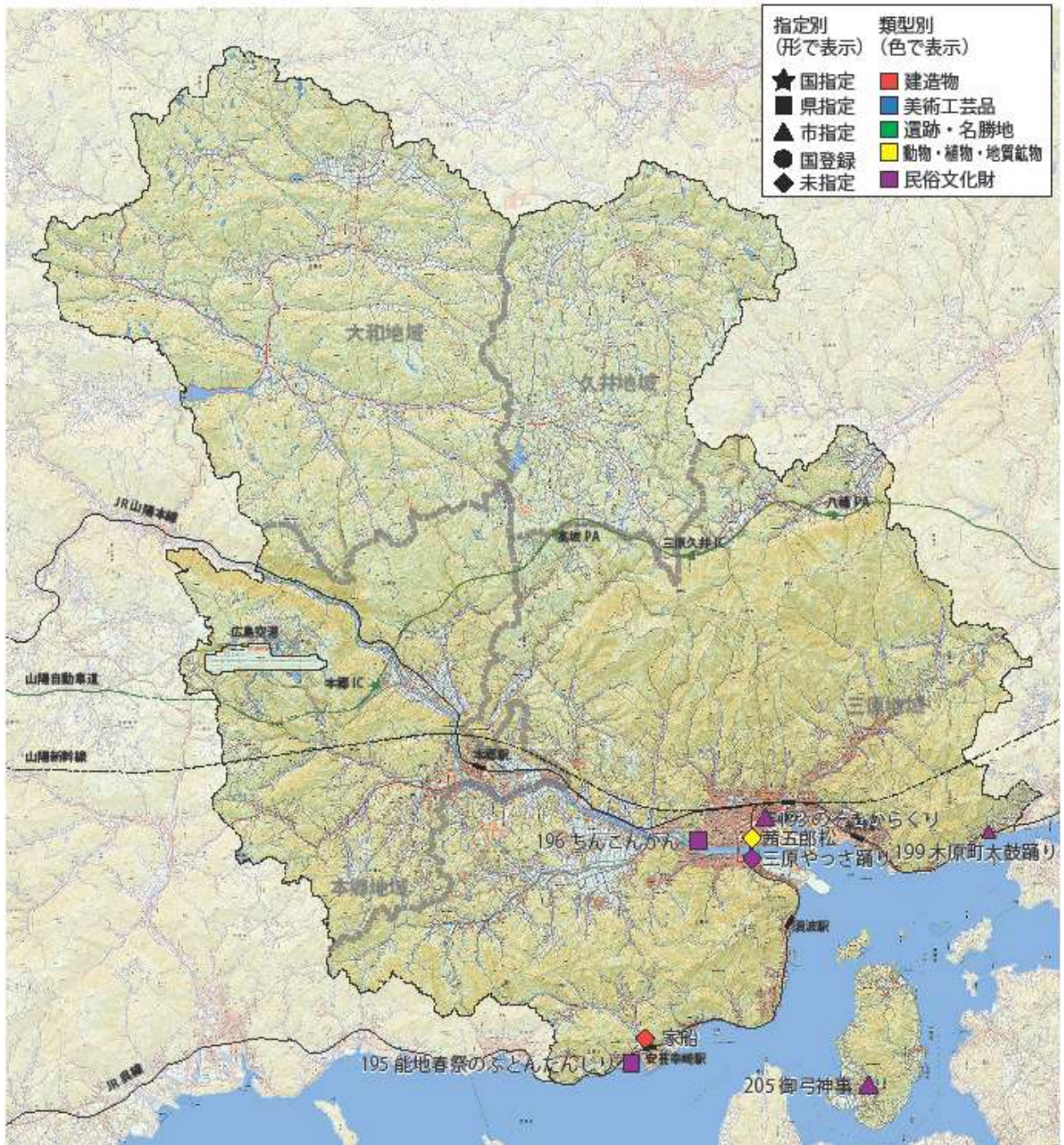
主なみはら資源の分布 5-1 鉄道と港の発達

特徴	5 近代工業都市「三原」への道程
小テーマ	5-2 企業城下町三原
概要	<p>沼田川の河口北には明治 11 (1878) 年から円一新開が築造され、南には昭和 25 (1950) 年から国営和田沖干拓事業が着工されました。</p> <p>これらの埋立地や三原湾周辺には、大正時代から、次々と工場が進出し、近代工業都市に転換しました。</p> <p>昭和 39 (1964) 年には備後工業整備特別地域に指定され、昭和 50 (1975) 年には山陽新幹線三原駅の開業、平成 5 (1993) 年には広島空港が開港するなど、産業と陸海空交通の拠点として発展しました。</p> <p>工場の進出とともに、居住地の開発が進み、学校や公共施設の整備も進みました。</p> <p>工場や建物などの近代建造物や、清水南山をはじめとする人々の技術は、現在まで残されています。</p>
関連する 主な みはら 資源	<p>[国登録] 南山資料館、酔心山根本店事務所、眞田家住宅</p> <p>[市指定] 清水南山生誕の地、清水南山遺品、彫金唐獅子図手板</p> <p>[未指定] 佐江崎鉦山跡、神武鉦山、帝国人造絹糸 三原工場（帝人岸壁）、旧三原信用金庫、山脇邸（旧西備銀行）、東洋繊維のレンガ建物（イオン三原内）</p> <div data-bbox="384 965 914 1346" data-label="Image"> </div> <p>帝国人造絹糸 三原工場（帝人岸壁）</p> <div data-bbox="395 1429 799 1944" data-label="Image"> </div> <p>東洋繊維のレンガ構造物</p>



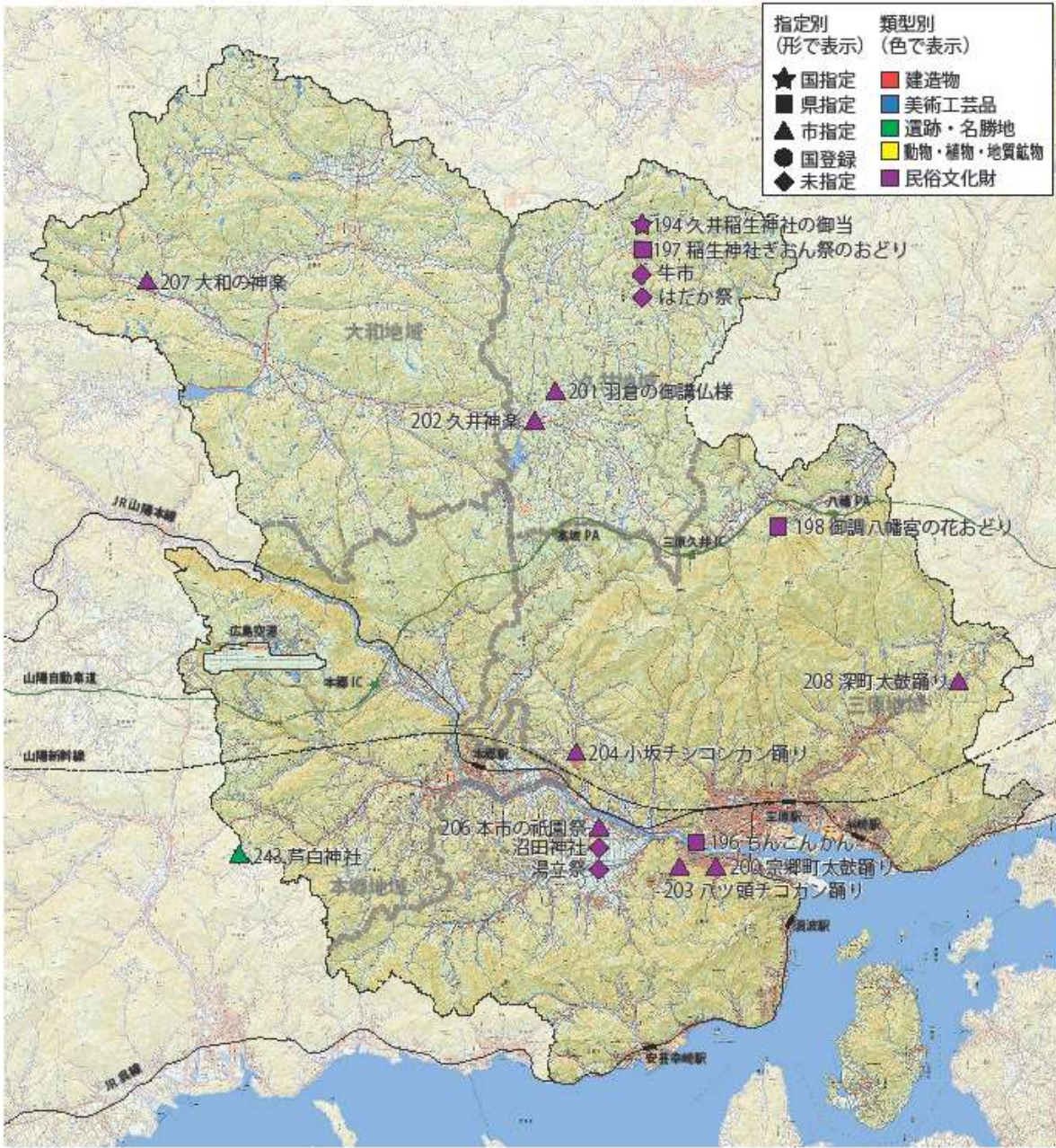
主なみはら資源の分布 5-2 企業城下町三原

特徴	6 暮らしに息づく伝統文化
小テーマ	6-1 瀬戸内の伝統文化
概要	<p>沿岸部では漁村集落も形成され、人々の往来によって伝わったものが根付き、独自の伝統文化が築かれました。</p> <p>幸崎能地には、家船と呼ばれる、船上で生活を営んでいた漁師たちの船が見られました。能地春祭のふとんだんじりは江戸時代中期から伝承され、四国北部沿岸部などとの文化交流を知る上で貴重です。</p> <p>三原やっさ踊りで唄われる三原やっさ節は、海路を通して日本各地に広まったハイヤ節の系統で、現在も唄い継がれています。</p> <p>現在は制作が途絶えています。子どもの健やかな成長を願うため三原人形も盛んにつくられました。三原だるまは現在もつくられています。</p> <p>冬に行われる「とんど」や「亥の子」などの年中行事は、現在も市内の各地で行われています。</p>
関連する 主な みはら 資源	<p>[県指定] 能地春祭のふとんだんじり [市指定] のぞきからくり、御弓神事 [未指定] 宮島神社、祭礼（宮島さん）、三原やっさ踊り、半どん夜市、タコ漁、三原だるま、家船、大師信仰、太子堂、辻堂、亥の子、とんど</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>能地春祭のふとんだんじり</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>御弓神事</p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;">  <p>のぞきからくり</p> </div>



主なみはら資源の分布 6-1 瀬戸内の伝統文化

特徴	6 暮らしに息づく伝統文化
小テーマ	6-2 内陸部の伝統文化
概要	<p>沼田川をはじめとした市内の河川流域の平野では、米作を中心とした農業が発展しました。</p> <p>久井稲生神社の御当は、中世の伝統がほぼ当時に近い形で継承されています。</p> <p>夏には、市内各地で雨乞いおどりを起源とする、ちんこんかんや太鼓踊りが行われています。担い手が少なくなり、やめたところもありますが、近年復活させるところも出てきました。祇園祭りや夏祭り、秋祭りも行われています。</p> <p>備後神楽の系統をひく大和の神楽、久井神楽は、江戸時代から継承されてきました。</p> <p>大和町下草井では元禄 11（1700）年頃から、広島藩献上茶「鷹の爪」が生産されました。</p>
関連する 主な みはら 資源	<p>[国選択] 久井稲生神社の御当</p> <p>[県指定] ちんこんかん、久井町の節句どろ人形、稲生神社のぎおん祭のおどり、御調八幡宮の花おどり、羽倉の御講仏様</p> <p>[市指定] 祇園祭、太鼓踊り、久井神楽、大和の神楽</p> <p>[未指定] 田植唄、盆踊り唄、大師信仰、大師堂、辻堂、沼田（淳田）神社、湯立祭、沼田本郷夏祭り（本郷地藏祭り）、亥の子、とんど、はだか祭</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  <p>久井町の節句どろ人形</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>ちんこんかん</p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;">  <p>大和の神楽</p> </div>





主なみはら資源の分布 6-2 内陸部の伝統文化

特徴	7 瀬戸内の海・山・川の恵み
小テーマ	7-1 瀬戸内の景観と自然
概要	<p>海・山が広がり、南北で高低差がある地形からなる三原市には、瀬戸内海に育まれた豊かな自然があります。</p> <p>瀬戸内海国立公園の主要な眺望点として、筆影山、白滝山、竜王山、鉢ヶ峰の4地区が指定されており、それぞれの山からは、瀬戸内海の多島美を眺めることができます。冬季になると、海霧が海一面を真っ白に覆い、その合間に島の姿が浮かぶ幻想的な風景を見ることがもできます。</p> <p>豊かな瀬戸内海には多くの生物が生息しています。幸崎沖では浮鯛漁が行われていたことが文献にも残されており、タコは、現在も三原を代表する海産物です。希少生物としては、ハクセンシオマネキや、スナメリが確認されており、またナメクジウオの生息地は国の天然記念物に指定されています。</p>
関連する 主な みはら 資源	<p>[国指定] ナメクジウオ生息地 [市指定] 糸碕神社のクスノキ・山姥の手形 [未指定] 瀬戸内海、筆影山、旭町漁港、宗郷谷、長浜海岸、幸崎漁港、浮鯛、海霧</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  <p>ナメクジウオ</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; width: 100%;"> <div style="text-align: center;">  <p>筆影山からの風景</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>糸碕神社のクスノキ</p> </div> </div> </div>



主なみはら資源の分布 7-1 瀬戸内の景観と自然

特徴	7 瀬戸内の海・山・川の恵み
小テーマ	7-2 内陸部の自然環境
概要	<p>市北部の久井地域や大和地域を中心とする内陸部では、瀬戸内海に面した市南部とは異なる、特徴的な自然環境が形成されています。</p> <p>国天然記念物の久井・矢野の岩海（久井岩海）は、花崗岩の風化・侵食作用を示す貴重なものであるとともに、以前は人々が里山として薪や落ち葉を採取したり、牛を放牧する場所でした。現在も地域の象徴として守られています。</p> <p>県立自然公園として、佛通寺御調八幡宮県立自然公園・竹林寺用倉山県立自然公園があり、多くの自然を体感できる、人々の憩いの場となっています。</p> <p>また、ヒョウモンモドキ、ハッチョウトンボなどの希少な生物が確認され、保護活動が行われています。</p> <p>大和町の棕梨川流域では、オオサンショウウオの生息も確認されています。</p> <p>沼田川流域には女王滝や瀑雪の滝などがあり、自然が生み出した景観を体感できます。</p>
関連する 主な みはら 資源	<p>[国指定] 久井・矢野の岩海、沼田西のエヒメアヤメ自生南限地帯 [県指定] 吉田のギンモクセイ、苧原のオガタマノキ [市指定] 吉田山甌穴群、篝溪谷甌穴群 [未指定] 昇雲の滝、女王滝、瀑雪の滝、芦田川の源流、沼田川、オオサンショウウオ</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>久井・矢野の岩海</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>瀑雪の滝</p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;">  <p>エヒメアヤメ</p> </div>



主なみはら資源の分布 7-2 内陸部の自然環境

